

＝東北地方整備局秋田河川国道事務所＝

## 河辺拡幅の現場で最先端舗装の見学会

### 国内初・建機搭載型LSの出来形管理

東北地方整備局秋田河川国道事務所は16日、国道13号河辺拡幅事業のICT舗装現場見学会を開催した。秋田県、秋田市の職員や地元の建設業者などが参加し、国内初の取り組みとなる建設機械搭載型レーザースキャナによる舗装工の出来形管理を見学した。

河辺拡幅事業は、交通の混雑解消などのため、延長6,600mを拡幅して四車線化するもので、延長3,000mを供用済み。見学会を開催したのは「河辺地区道路改良舗装工事（秋田市河辺和田岡村～上北手古野、L480m）」の現場。前田道路の施工（工期：4年3月25日）を進めている。

見学会で紹介されたのは、舗装工の出来形管理で生産性の向上を図るため、前田道路と法政大学、三菱電機エンジニアリングが共同で開発を進めている「建設機械搭載型出来形管理システム」。タイヤローラーに3次元計測装置（3Dレーザースキャナ）を搭載し、自動追尾型TSと組み合わせることにより、移動するだけで3D計測を行うことができる。

計測から解析まで約半日で完了し、作業

人数も1.2人で済むなど、従来の地上型LSや手押し移動型LSに比べ大幅な作業時間・人員の削減が見込まれている。また、作成したデータはインターネットのクラウド上にアップロードされるため、離れたところでもリアルタイムで情報を共有できる。同技術は国土交通省の「令和2年度i-Construction大賞」で優秀賞を受賞している。

昨年度からは工事現場での試行を進めており、同年度は路床や路盤における出来形管理を実施。従来の方法と比較して、計測精度は鉛直方向において誤差±10mm以下との結果を得ている。今年度は、アスファルト舗装箇所の計測やデータのBIM/CIM活用についての取り組みを進めている。

当日は河辺拡幅事業の概要やICT舗装の概要などについて説明した後、システムのデモンストレーションを行った。



【建機搭載型LSを活用し出来形管理】